年間第１４主日

福音朗読　マルコ６・1-6

2024.7.7　9：30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭　高木健次神父

宗教一般に言えることだと思いますけども、信仰生活には二つの側面があると言われています。

一つは、居場所を与える、そして安心感を与えてくれるっていう機能です。自分がどのような者でも、キリスト教的に言えば、神様がともにいてくださる、そして自分を受け入れてくれる共同体があるという、そういう一つの安心感です――安定と言いましょうか。

一方で、もう一つは、今のそういう安定した状態から出ていくように、あるいはより広い考え方や世界に出会うようにと促す。聖書でも、アブラハムの昔から、神様はアブラハムがその故郷（ふるさと）を出るように命じられるし、イエス様も弟子たちにその自分たちの今の場所から一緒に行こうと、外に一緒に行くように誘われるわけです。

それぞれの安定したつながりや心の安心を得ると同時に、そこから出ていくように促すっていうのかな、両方の側面があるわけです。

カトリック教会のシステムでは、例えば、この教会の共同体っていうのはずうっと子どもの頃からいれば昔馴染みで安心する、そういう故郷のような共同体でありますけれども、それだけじゃないんだよっていうことを示すために、司祭は人事異動で何年か毎に代わって新しい人が来る。

そういうシステムになっているのは、ただ色々な事務の仕事とかその効率の話だけではなくて、その共同体がそこだけで閉じられているのではない、もっと広い全教会、あるいは人間の思いを超える神様の恵みへとつながってるんだっていうことを目に見える姿で示す一つのしるしとなっていると言えます。何年か毎に代わる司祭だけではなくて、新たに洗礼を受ける人の存在であったり、また今日と来週、堅信の講座があって、そして３週間後には司教様をお迎えして堅信式がありますけども、その堅信ということを通して一人の洗礼を受けた信者は完全な教会のメンバーになるわけなので、そういう意味では、堅信を通して新しいメンバーを迎える――もともと知っている人であっても、しかし新しいメンバーとして迎えるっていうこともしるしだと言えます。信仰共同体には安定した、移り変わる世の中にあって変わらない共同体、そして変わらない価値観をずうっと伝えていくっていう一つの

――動と静で言えば、静の側面と、そして、しかしそれを越えて――宗教的な、あんまり使わない言葉ですけども、超越って言いますけども、今の考え方や今の有様を絶えず出ていくように、超えていくようにというか、より広いものに出会うように促すっていう動の側面と、安定と超越、その二つの側面があるわけです。もちろん、新しくやって来た司祭の言うとおりにしなさいという意味ではないんですよ。だけど、「この共同体は昔からこうやってきましたから」っていうだけに留まっていたら、そこに成長がないんです。もちろん司祭もまたそれぞれ何年か毎に新しい共同体に出会うことを通して変えられていくというか、より考え方の幅を広げていただいていることを受け入れる必要があります。

今日の福音では、ナザレにお帰りになったイエス様――今でもやっぱり地方に行けば一人ひとり小さい頃から知っていて、そしてその共同体での役割っていうのは固定して、みんなが「あの人はこういう人。あの人はこの役割」そういうふうにもう思っているというようなつながりが日本でもあると言われてます。ましてや２千年前のガリラヤの小さな田舎のナザレの村では、みんなそれぞれが期待される役割っていうのは固定されている。だから、イエス様を通して誰も新しい神様の教えに出会おうなんていうのは思ってないわけなんです。そういう意味で、超越への開き、聞く耳がなかったって――不信仰っていう言葉がありますけど――「自分たちが慣れ親しんだもの以外に心が開きませんでした」っていうのが今日のお話なわけです。それだと、未知なもの、自分の今の経験を超えるものに出会うことを通して与えられる、出会うことができる恵みに出会い損なったということでもあるわけです。

しかし、その未知のものに出会うためには、わたしたちは自分自身が受け入れられているっていう安心した土台があってこそでもあるわけです。

わたしたちの信仰には教会という信仰の家があるのだという安心感が必要です。でも世界中に広がっている教会を自分の信仰の家として見出すことができるには、自分が小さい頃から生まれ育って人間的に知り合っている人たち以上のつながりが信仰を通して与えられるっていう考えへと広がっていかなければなりません。

わたしたちがそれぞれの――今日また新しく初聖体をお受けになる方もいらっしゃるわけですので――それぞれ日々出会う多くの人、また日々出会う自分自身のまだ気付いていない可能性や側面、そしていろいろな出来事を通して、より導かれていく、神様のみ旨によって成長させられていくっていうことにどうぞ開かれますように。しかし、それが互いに支え合いながら、励まし合いながらともにいる、そういう仲間としてどんな時にもともに歩んでくださるっていうイエス様のことを見出すことを通して安心することができますように。

安心し、そしてその安心に支えられて、そこから出て新しい恵みに出会う。それをキリスト教では「死と復活」っていうふうに言います。わたしたちが死と復活を通して恵みに出会い続け、そして多くの人々と神様のもとでの家族であるということを見出していくことができますように。ともにあり、そして新たなものへと開かれていく、その恵みに感謝すると同時に、その導きに耳を傾け心を開く、その思いを新たにして、ともにこのごミサをお捧げしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC　http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi

携帯　http://www.koenji-catholic.jp/mobile/